

シティプロモーションに関連する事業の進捗状況調べ

※「評価」欄について

- A: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が非常に高く、今後も更なる充実が見込める。
- B: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が一定あり、今後も同程度の貢献度で実施予定である。
- C: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しているものの、シティプロモーション推進に対する貢献度は低い。
- D: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しなくなっている。または今後廃止予定である。

暮らしの場面	No	取組例	所管課	実施計画事業名	平成30年度回答			
					実施状況	今後の取組内容	評価	評価の理由
健	1	北大阪健康医療都市(健都)において、立地施設を含め、「健康・医療」をキーワードとした事業を展開する。また、(仮称)健都ライブラリーと公園を一体的に活用し、健都ならではの健康・医療の取り組みを推進する。	北大阪健康医療都市推進室	北大阪健康医療都市推進事業	平成30年3月に健都レールサイド公園が供用開始。公園内のウォーキングコースなどを活用した健康講座など、年間を通じて健康プログラム等を開催していく。	健都レールサイド公園での健康プログラム等を引き続き展開する。また、(仮称)健都ライブラリーの整備後は、公園と一体的に活用した健康プログラム等も展開する。	A	「健康・医療のまちづくり」基本方針、まち・ひと・しごと創生総合戦略、健康・医療のまちづくり加速化プラン等の本市施策に資する取組のため。
健	2	運動に親しみのない方も運動を習慣化することで健康寿命の延伸が図れるよう、気軽に取り組める、ウォーキング、ノルディックウォーキングや「すいた笑顔(スマイル)体操」の普及・定着に取り組んでいる。	文化スポーツ推進室	運動習慣化推進事業 地域スポーツ促進・サポート事業	ノルディックウォーキングが各地区行事に積極的に取り入れられており、普及が図られている。また、「すいた笑顔(スマイル)体操」の音楽を昼休憩時に流し、来庁者及び職員に音楽と体操を覚えてもらえるよう周知を図っている。市民スポーツ講座は「安全な歩き方」をテーマに実施する予定である。	ノルディックウォーキングの体験会や指導者研修会を実施し、更なる普及を図る。また、ウォーキングやノルディックウォーキングの講習会、イベント等の情報を提供し、市民の自主的な取り組みを支援する。保健センターの「健康ポイント事業」と連携し、健康教室等を付与対象とする。	A	すいたんポールを使用したノルディックウォーキングの行事を各地区体育振興(協議)会が積極的に実施しており、また、すいた笑顔(スマイル)体操についても各地区で実施されていることから、今後も更なる普及が見込めると考える。
健	3	認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための地域づくりを進めるために、認知症サポーター養成研修、徘徊高齢者搜索模擬訓練、成年後見制度利用支援事業を実施している。	高齢福祉室	認知症サポーター養成事業 認知症地域サポート事業 成年後見制度利用支援事業	平成29年度の認知症サポーターは3月末現在で、21,582人であり、今後も継続して実施していく。認知症地域サポート事業については、2地域から申請されている。また、認知症高齢者に対する成年後見人等の報酬等の助成については年々利用者が増加しており、継続して実施していく。	認知症サポーター養成事業、認知症地域サポート事業、成年後見制度利用支援事業については継続して実施していく。	B	認知症サポーター養成事業は開催回数及び受講者数が年々増加している。また、認知症地域サポート事業は、今年度分ですべて市内全ブロックでの実施になる見通し。認知症の正しい知識の普及に繋がっていると評価している。成年後見制度利用支援事業の利用者も増加している。
健	4	吹田市国保健康診査(特定健診)、がん検診等の各種健(検)診を身近なかかりつけ医等で受診できるなど、市民が健康管理に取り組みやすい環境整備を行っており、吹田市国保健康診査については、全国的に見ても高い受診率を維持している。	国民健康保険室 保健センター	特定健康診査(国保健康診査)事業 がん検診事業 結核検診事業 骨粗しょう症検診事業 30歳代健康診査事業 聴力検診事業 B型・C型肝炎ウィルス検診事業 ペプシノゲン胃検診事業 前立腺がん検診事業 吹田市健康長寿健診事業	市内の協力医療機関において各種健(検)診事業を継続して実施している。(胃内視鏡検診の実施について検討を行う。)	引き続き、継続的に実施するとともに、各種健(検)診事業の受診率向上に努めていく。平成30年度9月から国保健診受診者の特定保健指導の一部を医師会に委託し、身近な医療機関で健診の結果説明時にあわせて保健指導を受けることができるよう変更を行う。	B	国保健康診査の受診率は全国及び府平均を上回っている。また、がん検診事業については、胃がん検診をのぞき、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん検診は府平均受診率より高く、健康・医療のまちというシティプロモーションの方針に合致しており、今後の事業を継続することで、一定の貢献度が見込まれる。
健	5	大阪府内で初めて「吹田市歯と口腔の健康づくり推進条例」を制定。妊婦歯科健康診査や6歳臼歯健康診査など、先進的に歯科保健事業を行うとともに、口腔ケアセンターを設置し、歯科保健の推進に取り組んでいる。	保健センター	1歳6か月児健診事業 2歳6か月児歯科健診事業 3歳児健診事業 歯科フォロー事業 6歳臼歯健康診査事業 成人歯科健診事業 在宅寝たきり高齢者等訪問歯科事業 妊婦歯科健診事業 口腔ケアセンター運営事業	各種歯科健診事業、口腔ケアセンターにおける「赤ちゃんの歯の広場」等の委託事業や「お口の健康体操教室」等の補助事業も継続実施している。歯科医師会と定期的に会議をもち、事業の評価、検討を行っている。成人歯科健診では、平成30年度から後期高齢者医療保険の加入者は大阪府後期高齢者医療歯科健診を受診するが、今まで実施していた成人歯科健診の内容から低下することがないように市で内容を上乘せして実施している。	引き続き、継続的に実施するとともに、各種歯科健診事業は受診率向上に努めていく。在宅寝たきり高齢者等訪問歯科事業では対象者の見直しや、事業名を変更することによって、受診しやすい事業にしていける。	B	昨年同様事業を実施し、特に在宅寝たきり高齢者等訪問歯科事業では対象者の見直しや、事業名を変更することによって、受診しやすい事業にしていける。また各種歯科健診事業も受診率向上に努めていくため、シティプロモーション推進への貢献度は今後も同程度と考える。
健	6	公民館で文化スポーツ推進室と連携した運動講座を開催している。	まなびの支援課	地区公民館事業	地区公民館主催講座で、文化スポーツ推進室職員が講師となり、ロコモ予防を目的とした筋トレ、ストレッチのなど各種講座を実施。平成29年度では、市内地区公民館30館のうち、14館、計109回実施された。	継続実施の地区公民館からの反応は良好。平成30年度より、まなびの支援課に運動の専門性を持った職員が配置されたことで、講師派遣回数の増が見込みやすくなった。今後は未実施の館を含め、より多くの館での実施を目指す。	A	直接所管課に担当職員が配属されたことで、事業の効率的運用が可能となり、実際に実施回数は増加する見込である。※備考 調査票の取組例については、「まなびの支援課職員の派遣による運動講座」と改変が必要である。
健	7	まなびの支援課と連携し運動講座を開催している。	中央図書館	主催行事事業	29年度より成人向け講座のみ実施し、参加者は108名。今年度も各館で実施中。吹田市健康ポイント事業にも参加。(30年度より連携先がまなびの支援課に変更。)	図書館を利用しない人への読書振興と位置づけ今後も継続していく予定。	B	図書館で運動講座を行うという健康・医療のまち吹田ならではの事業であり、今後もシティプロモーション推進への貢献度は高いと考える。

※網掛けの項目がシティプロモーションの重点取組候補

シティプロモーションに関連する事業の進捗状況調べ

※「評価」欄について

- A: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が非常に高く、今後も更なる充実が見込める。
- B: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が一定あり、今後も同程度の貢献度で実施予定である。
- C: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しているものの、シティプロモーション推進に対する貢献度は低い。
- D: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致していない。または今後廃止予定である。

暮らしの場面	No	取組例	所管課	実施計画事業名	平成30年度回答			
					実施状況	今後の取組内容	評価	評価の理由
安	8	DV及び児童虐待の防止を一体として進める「Wリボンプロジェクト」を実施し、「暴力のない安心安全のまち、すいた」の実現を図っている。	男女共同参画室 男女共同参画センター	DV防止対策事業	女性に対する暴力をなくす運動期間である11月に、講演会やガンバ大阪の試合にあわせたキャンペーン、大観覧車「オオサカホイール」のWリボンプロジェクトのシンボルカラーへのライトアップ等を実施する。	Wリボンプロジェクトをより多くの市民に知ってもらい、運動を拡大していく。	A	Wリボンプロジェクトは吹田市が独自に考案したWリボンマークを旗印に「暴力のない安心安全のまち、すいた」の実現を目指す取組であり、シティプロモーション効果は高い。シティプロモーションのグッズ企画等とWリボンとのコラボや吹田市情報発信プラザでのWリボンバッジ販売、プロジェクトのPRを行うとより効果的であると考えられる。
安	9	災害発生時に最寄りの避難所開設や情報収集・情報伝達を担う「緊急防災要員」を任命するなど、災害時の初動体制をいち早く構築できるよう取り組んでいる。	危機管理室	-	欠員の補充や新規任用など人数の確保と並行して、研修や訓練を実施して、初動体制の確立の要として、実効性をあげるべく積極的に取り組んでいく。	継続して実施	A	災害発生時に、いち早く被害の情報等の情報収集を行うことや、避難所を開設するためには、効果的な取組であると考えられる。
安	10	「動く防犯カメラ」として期待されるドライブレコーダーの普及促進や青色パトロールカーを活用した見守り活動、子どもの見守り活動、犬の散歩時を活用したパトロール「わんわんパトロール」等のさまざまな見守り活動を支援することで、「地域の見守る目」を増やしている。	危機管理室	安心安全ドライブレコーダー普及促進事業 青パト燃料支援事業吹田市防犯活動補助事業	市内事業者へのドライブレコーダー設置補助や見守りステッカーの配布、パトロールグッズの配布や青パト活動への補助や結成支援を実施していく。	継続して実施	A	市の安心安全を高める施策として、ドライブレコーダーの設置補助及び見守りステッカーの配布を新たに行うことで、「地域の見守る目」を増やすことができた。(140台の設置補助と見守り活動協力者250台、合計390台分) また、青パトや子ども等の見守り活動を支援することで、地域の防犯力や見守りの目を維持することにつながっている。
安	11	メイシアターでは、「500円おひるまコンサート」「名曲日和」「名作映画劇場」など昼間にゆったりとした時間を過ごすことができる催しを実施している。	文化スポーツ推進室	-	それぞれ定期的に事業団の自主事業として開催している。	今後も事業団と連携しながら魅力的な事業を実施していく。	B	昨年度は改修の関係で実施できなかったが、今年度は例年同様の規模で実施予定である。
安	12	高齢者から乳幼児まで、どなたでもゆっくり読書やCD、DVDを楽しむ環境がある。	中央図書館	図書館運営事業 施設管理事業	CD、DVD、雑誌を含む幅広い資料1,162,107点を揃えている。29年度のべ来館者1,958,047人であった。	幅広い資料選択と、バリアフリーに配慮した施設整備を心がけて運営を行う。	A	幅広い資料選択とバリアフリーに配慮した施設整備を行い、誰もがゆったりとした時間を過ごせる場所として今後も更なる充実を目指す。
安	13	市内の保育園、幼稚園、認定こども園を対象に、防火映画会、消防署の見学、消防出初式等への参加等を通じ、幼年期からの防火思想の普及啓発等を図っている。	総務予防室	自主防火組織育成強化事業	各消防署の見学等については、依頼があれば随時実施しており、消防出初式への参加については今年度も計画をしている。	引き続き継続して実施していく。	B	今後も継続して実施されるものであり、一定の貢献はしていると思われるため。
安	14	大規模災害が発生した際、地域防災の担い手である消防団の活動が必須となるため、新規団員募集のPR活動を積極的に実施し、地域防災力の向上に努める。	総務予防室	消防団運営事業	自治会等のイベントにおいて、積極的にPR活動を実施している。また、吹田まつり冊子に団員募集について掲載している。	引き続き左記の取組を継続して実施していく。	B	引き続き実施していく予定であり、一定の貢献はしているため。
安	15	学校、自治会及び事業所などを対象にAED(自動体外式除細動器)の使用を含めた普通・上級救命講習会等を計画的に実施し、自主救護能力や傷病者に対する救命率の向上を図る。	警防救急室	応急手当普及啓発事業	救命講習会を消防主催で年間14回開催するとともに、依頼があれば市内の事業所や各団体の施設に Outreach 実施している。また、市内の中学2年生(約3,000人)対象に救命講習会を随時実施している。	引き続き左記の取組を継続して実施していくとともに、広報活動を実施し、受講者の更なる増加を図っていく。	B	救命講習会等の計画的な実施により、自主救護能力や傷病者に対する救命率の向上が図れている。
住	16	千里南公園が市民にとって心地よい公園となるように、新たなコミュニティ空間となるパークカフェを設置する「千里南公園パークカフェ整備事業」を実施している。	公園みどり室	千里南公園パークカフェ整備事業	平成30年度内のオープンに向けて、パークカフェの基盤整備工事や、整備・運営事業者と建築物に係る協議を進めている。	カフェ運営事業者とともに、千里南公園の持つ機能を最大限発揮することができるような取組を模索していく。	B	カフェは一年を通じて来園者がゆったりとみどりを感ずることができ空間です。平成31年2月のオープンに向け、基盤整備工事引き続き、カフェ整備・運営事業者による建築工事に着手していく。現在、検討が進められている千里南公園の利活用の取組と連携することが重要であり、引き続きカフェ事業者と協議、調整を行う。

※網掛けの項目がシティプロモーションの重点取組候補

シティプロモーションに関連する事業の進捗状況調べ

※「評価」欄について

- A: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が非常に高く、今後も更なる充実が見込める。
- B: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が一定あり、今後も同程度の貢献度で実施予定である。
- C: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しているものの、シティプロモーション推進に対する貢献度は低い。
- D: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しなくなっている。または今後廃止予定である。

暮らしの場面	No	取組例	所管課	実施計画事業名	平成30年度回答			
					実施状況	今後の取組内容	評価	評価の理由
住	17	市民の方々に喜んで利用していただくことを目的としたオリジナル婚姻届の作成を進めている。	市民課	-	「すいたん」版(市民課作成)と「ガンバ」版(シティプロモーション推進室作成)の2種類を利用中	利用状況を検証しながら、よりよいデザインの研究を重ねていく。	B	2種類のオリジナル婚姻届の利用率は約3割である。今後は、事務効率面からもデザインの研究が必要である。
住	18	再生可能エネルギーの導入拡大の創出を目的とした「吹田市電力の調達に係る環境配慮方針」を策定し、公共施設において電力の調達契約の競争入札を実施する場合には、再生可能エネルギー比率の高い電気を供給することを主な入札参加条件とした、環境配慮型の電力調達を行っている。 この取組により、吹田市第2次環境基本計画(改訂版)に掲げる「限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換」を目指している。	環境政策室	-	平成29年10月から、公共施設のうち特別高圧又は高圧で受電している計79施設を対象に、電力の切り替えを行った(受電期間:1年間)。平成30年10月からは、さらに対象施設を低圧受電の施設や負荷率の高い高圧受電の施設にも拡大し、計296施設で再生可能エネルギー比率の高い電気を供給する事業者からの電力受給を開始する(受給期間:1年間)。	今後さらに対象施設を拡大し、電力調達を実施することを予定している。また、本市の電力調達での電気料金削減額の一部を環境まちづくり基金の財源として積み立てており、環境基本計画やエコオフィスプラン等の行政計画に掲げる目標達成に向けた取組の推進に活用する予定としている。	A	この取組は吹田市特有のものであり、これにより、公共施設で使用する電気の約30%が、再生可能エネルギーで作った電気となっている。(取組実施前は約14%) また、平成29.30年度で電気料金を合計約4億7,752万円削減している。
住	19	大阪府で初めて北摂地域7市3町と食品スーパー9社で「北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を平成30年4月1日付で締結し、日常生活や事業活動における環境負荷の軽減に向け住民・事業者が自らのライフスタイル・ビジネススタイルを再考し、ごみ及び二酸化炭素の排出抑制を図る契機とするため、レジ袋削減に積極的に取り組んでいます。レジ袋無料配布中止実施日は平成30年6月1日から。	環境政策室	ごみ減量・再資源化啓発事業	北摂地域7市3町と食品スーパー9社で平成30年6月1日からレジ袋無料配布中止を行い、マイバッグ等で啓発し、マイバッグ持参率80%の目標達成に向け取り組んでいます。	北摂マイバッグ持参促進・レジ袋削減協議会を中心に議論を重ね、中小スーパー・コンビニ、ドラッグストアなどにもレジ袋削減を働きかけていきます。	A	北摂地域7市3町における6月のマイバッグ持参率は76.6%であり、5月に比べ29.8%上昇している。
住	20	市内の住宅の4分の3が集合住宅である特殊性を特長と捉え、市民が自主的にベランダを花で飾る活動を市が支援することで、潤いある色彩豊かなまちづくりを進める「彩団地プロジェクト」に取り組んでいる。	公園みどり室	みどり推進事業	平成30年6月に「彩団地助成金制度」の助成対象箇所を拡充した。また、新規に建設される集合住宅における普及方策を調査・研究している。	平成30年9月を目途に「彩団地助成金制度」等の効果検証を行い、プロジェクト推進方策の改善・見直しを実施する。	B	市のブランドの一つである豊かなみどり環境を強化する事業であるため、方針と一致している。また、市の特殊性を活かした事業であるため、一定の貢献度が期待できる。
育	21	市立吹田サッカースタジアムに小学生を招待し、施設見学やガンバ大阪指導のもとピッチ上でサッカー体験を行い、まちへの愛着と誇りを育てている。	文化スポーツ推進室	ホームタウン推進事業	市内の小学校21校・1,870人の4年生が5月にガンバ大阪の協力のもと、市立吹田サッカースタジアムでプロの選手の講話、スタジアム見学、ガンバ大阪指導によるピッチ上でのサッカー体験、防災備品備蓄倉庫見学、段ボールベッド組立を体験した。	市内の小学校36校の全ての参加を目標に、児童の心に残る、さらに魅力のある内容の検討を指定管理者及びガンバ大阪とともに行う。	A	ガンバ大阪と密接な連携・協力のもと、スタジアムを中心とし、本拠地を有するホームタウンとしての活動を推進することにより、「ガンバ大阪のあるまち」として地元への愛着や誇りを育み、活力ある地域社会の形成・発展に寄与することを目的とし、様々な事業を実施しているため。
育	22	妊娠・出産子育て期における様々なニーズに対して切れ目のないように相談、支援を行う「吹田版ネウボラ」を整備している。	保健センター	妊産婦相談支援事業 産後ケア事業 産前・産後サポート事業 産後家事支援事業 妊婦・産婦・乳児一般・乳児後期健診事業 訪問指導事業	妊娠届出時に保健師・助産師による全数面接を行い、各種事業の紹介や、必要な妊産婦には継続した支援を実施している。平成30年6月より産婦健康診査の助成、7月より産後家事支援事業を実施し、よりきめ細かく産前産後のニーズに対応している。	各種の事業をより効果的、効率的に運営するために、関係機関との連携会議や情報共有等を行い、吹田版ネウボラの体制を強化していく。	A	妊産婦の産前産後のニーズに対し、身近な専門職として寄り添い支援をしている。また、関係機関との連携をとって更なる課題の把握・解決に向けて検討していくため。
育	23	児童・生徒が、本市に縁があり、様々な分野で活躍する人と出会い、夢や目標をもって生きることの大切さを学ぶ夢と希望を広げる出会い事業を実施している。	まなびの支援課	夢と希望を広げる出会い事業	平成29年度は、延べ2,755人が受講。『夢と希望を広げる出会い～未来への備え～inスタジアム』を開催し、Panasonic Stadium Suitaに希望する市内小学4年生を招き、国際試合が可能なサッカースタジアムを体感することで、まちへの愛着と誇りを育み、また、トップレベルの選手とふれ合う場を通じて、子どもたちが自らの夢を見つけながら目標を持って努力することの大切さを学び、将来の生き方について考える機会を提供した。さらに、危機管理室の協力のもと、災害用備蓄物資の保管や救援物資等の集積・仕分けや配送場所としての機能を有するスタジアムにおいて、段ボールベッド等の組立体験を通じて、防災意識の向上も図った。 今年度から本事業の趣旨に賛同し、テノール歌手やバイオリニスト等の方が講師として協力したいという申出もあり、様々な分野での講師をお招きして本事業を展開できた。	今後も様々な分野の講師に協力いただき、関係部局と連携して、夢や希望、目標を持って生きていくことの素晴らしさについて考える機会を提供する。	A	児童や先生の感想からも、夢や目標を持つことの大切さを実感できたといったご意見をいただいている。また、講師も趣旨に賛同し、ご協力して下さる方が増えている。

※網掛けの項目がシティプロモーションの重点取組候補

シティプロモーションに関連する事業の進捗状況調べ

※「評価」欄について

- A: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が非常に高く、今後も更なる充実が見込める。
- B: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が一定あり、今後も同程度の貢献度で実施予定である。
- C: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しているものの、シティプロモーション推進に対する貢献度は低い。
- D: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しなくなっている。または今後廃止予定である。

暮らしの場面	No	取組例	所管課	実施計画事業名	平成30年度回答			
					実施状況	今後の取組内容	評価	評価の理由
育	24	ココカラsuitableキッズ事業の運動あそびを通して、子どもの意欲を引出すきっかけとなるアプローチ方法を保育者等に紹介・提案することで、子どもが身体を動かす楽しさを実感し、自発的に身体を動かす機会を増やすことをもって、「こころ」と「からだ」の健やかな育成に繋げる取組を実施している。	文化スポーツ推進室	ココカラsuitableキッズ事業	千里金蘭大学との共同研究による身体活動実践集に繋がるサンプル集第2版を作成している。子どもの育ちに関する情報発信を目的に、ガンバ大阪を含む、産学官連携による取組を進め、セミナー等の開催を予定している。	産学官連携による「suitable(吹田でできる)」の取組を広く発信する。	A	連携セミナーは、参加者アンケートの評価も高く、今後も子どもに関わる幅広い層を対象に様々な方法で情報発信を行い、産学官による吹田市ならではの取組を進めていく予定。
育	25	「すいたティーンズクラシックフェスティバル」は本市に縁のある若者を対象としたレッスンやコンクール、コンサートを通して、市内の若者と市外の若者が切磋琢磨し、それぞれの才能や技術を高め合っている。	文化スポーツ推進室	ティーンズクラシックフェスティバル事業	コンサートのみではなく、公開レッスンを実施したりと、将来性豊かな演奏家の発掘に努めます。	本市に縁のある若者を対象としたコンクールを中心にを行い、クラシック音楽家の育成及びクラシック音楽愛好家の裾野の拡大を図る。	B	今年度は、予選・本選の中止により、レッスン辞退者が出たりと、昨年度と同様の規模での実施になる見込みであるため。
育	26	私立認定こども園、私立保育所及び市立保育所で、育児教室をはじめ、地域の児童と園児の交流、施設の一部開放、育児相談、サークル活動への支援など、関係機関との連携を図りながら、多様な子育て支援に取り組んでいる。	子育て支援課 保育幼稚園室	地域子育て支援センター事業	平成29年度については、育児教室は、公立1,831組、私立1,200組、育児相談は、3,168件、1,255件の利用があった。平成30年度も同様に実施を予定している。	引き続き、保育所等における子育て支援の機能を強化し、「子育ての地域共同の構築」や「子育ての主体形成」をめざす。	B	平成9年から全国に先駆けて地域子育て支援センターを整備してきており、他機関の協力を得て関係機関連絡会を構築してきた、地域の子育て支援の中心的な事業であるため。
育	27	月齢別の親子教室や父親教室の毎月定例開催や、子育て講座の開催、多胎児・転入者・外国人親子等の交流会を開催している。	のびのび子育てプラザ	のびのび子育てプラザ事業	2ヵ月から参加可能な月齢別の親子教室や父親教室を開催し、在宅で子育て中の親子への支援を行っている。平成30年4月より親子教室の対象月齢を細分化し、より月齢の近い親子の交流ができるよう工夫している。	引き続き、親子教室や子育て講座の充実を進めるとともに、より身近な場所での支援として、出張でのあかちゃん交流会や転入者交流会を市内各所で開催する。	B	現在の開催内容以上の充実は困難なため。貢献度は同等。
育	28	「子育て支援コンシェルジュ事業」を平成28年(2016年)4月から実施して、妊婦から子育て世代の相談を受け必要に応じて子育て関係機関と連携をとって支援している。	のびのび子育てプラザ	子育て支援コンシェルジュ事業	のびのび子育てプラザにて、来館や電話の他メールでも相談を受けており、事業の周知が進む中で相談件数が増加している。平成29年11月に開室した高野台のびのびルームについても徐々に周知が進み、昨年度は同ルームにて38件の来館相談があった。市民のより身近な場所で定期的な相談会を実施している。	引き続き、のびのび子育てプラザ内での相談業務及び、高野台のびのびルームでの相談会を行い事業の周知を図る。また妊娠前から子育て期までにわたる切れ目のない支援を提供する支援体制の推進を図るため、吹田版ネウボラ連携会議を開催する。	B	事業内容の大幅な拡大は望めないが、吹田版ネウボラの推進に向けての取り組みの強化を図るが、未知数のため貢献度は同程度。
育	29	市内全図書館と自動車文庫で赤ちゃんとその保護者に絵本を1冊プレゼントするブックスタートを実施している。また、絵本の読み聞かせやわらべうた手遊びに親しむ「ブックスタートのひろば」で子育て支援を実施している。	中央図書館	ブックスタート事業	絵本を赤ちゃんに贈り、吹田市の子どもたちの子育て環境が向上している。29年度の配付冊数は2,604冊、配付率81%。	関係部と協力して配付率100%を目指す。	A	絵本の配付率は80%以上を維持している。図書館で養成したボランティアによる「ブックスタートのひろば」は、地域で子どもを育てる環境にもなっている。
育	30	こども読書の日に合わせて人形劇やおはなし会を行う「子どもと本のまつり」を市内全図書館で開催している。	中央図書館	主催行事事業	吹田子ども本連絡会との共催で子どもの読書振興のために市内各図書館でイベントを開催し、今年度で第35回を迎える。平成29年度実施の第34回は、のべ参加1,845人。平成30年度も実施中。	子どもが図書館に足を運び、楽しんで参加できる行事を行うことが読書振興につながるため継続していく予定である。	B	昨年度同様に「子どもと本のまつり」を実施予定。子育ての重要性を考えると、シティプロモーションへの貢献度は今後も高いと考える。
育	31	子どもや親子で地域の伝統的文化を体験しながら学習する体験学習や体験型展示を実施している。	文化財保護課(博物館)	公開展示事業	毎年、小学校3年生社会科副読本と連動した体験型演劇「むかしのくらしと学校」を開催している。また、親子体験学習「しめ縄作り」を毎年実施している。	今後も継続していく予定である。	C	博物館事業としては学校教育との連携をはかる重要な事業であるが、シティプロモーションの観点からは必ずしも重要ではない。
育	32	市内のこども会加入の小学生を対象としたスポーツ大会を開催している。	青少年室	吹田市こども会スポーツ大会事業	中の島スポーツグラウンドにて、こども会のスポーツ活動の推進により、青少年の体力、協調性の向上を図るため、ソフトボール、キックベースボールの大会を実施している。本年度は6月15日を締切に参加チームを募集し、7月28日、29日に実施予定。(吹田市こども会育成協議会に委託)	参加チームは中の島グラウンドでの試合を毎年楽しみにしており、事業としては継続していく。しかしながら、参加資格が同一中学校区となっており、チームが成り立たない地区もあると聞いている。委託先や参加資格については、変更等を継続協議していく予定。	B	子ども会スポーツ大会に参加する子供たちは吹田の代表チームとなり三島大会出場を目指している。また、この大会の優勝チームが三島地区大会へ出場して好成績を収めている。

シティプロモーションに関連する事業の進捗状況調べ

※「評価」欄について

- A: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が非常に高く、今後も更なる充実が見込める。
- B: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が一定あり、今後も同程度の貢献度で実施予定である。
- C: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しているものの、シティプロモーション推進に対する貢献度は低い。
- D: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しなくなっている。または今後廃止予定である。

資料2

暮らしの場面	No	取組例	所管課	実施計画事業名	平成30年度回答			
					実施状況	今後の取組内容	評価	評価の理由
育	33	市内在住・在学・在勤の青少年グループによるロック・ポップス等の演奏と、ヒップホップ等のダンス発表の機会を提供している。	青少年室	ヤングフェスティバル事業	メイシアターの中ホールにて、市内在住・在学・在勤の青少年グループによるロック・ポップス等の演奏と、ヒップホップ等のダンス発表の機会を提供している。 本年度は11月18日に実施予定。(吹田市青少年指導員会に委託)	平成29年度はメイシアター工事のため、休止。平成30年度以降はメイシアターの中ホールにて、継続的に開催予定。	A	日頃の練習の成果をメイシアターで発表できることは、青少年にとって貴重な体験の場の提供となっている。また、青少年が司会などの運営にも携わっている。
育	34	野外活動等の実習を通して、宿泊キャンプやゲーム研修などから基礎的知識・技術を学び、地域で活躍する青少年リーダーの養成をしている。	青少年室	吹田市青少年リーダー講習会事業	6月2日、3日に1泊2日で吹田市自然体験交流センターにて実施、平成31年2月16日、17日に少年自然の家にて実施予定。地域で活躍する青少年リーダーの育成を図るため実施し、宿泊キャンプや、ゲーム研修などから基礎的知識、技術を学び、青少年リーダー養成のきっかけとしている。	リーダーの参加者数(指導者)の確保、拡充が課題となっている。 確保のために、キャンプに参加していた子供にリーダー団体の案内チラシを送付する。	B	小中学生でキャンプに参加した子供が、高校生となり、リーダーとして参加している。 リーダー養成のサイクルが出来ている。
育	35	青少年活動に関わっている人、今後関わる人を対象に、青少年の健全育成を推進するための講座の開催している。	青少年室	青少年指導者講習会	地域の大人が子どもを見守り、育てる環境づくりを進めるための指導者の育成を図り、青少年の健全育成を推進するために、その時々の課題となる薬物乱用、ネットいじめなどに関する講演、配慮を要する子どもとの付き合い方などの指導、救急法やクラフトなどの実技の講座等を年6回開催予定。	今後も青少年健全育成に地域で取組みをしている指導者に講習会を開催する必要がある。	B	青少年に関わる様々な団体の指導者に青少年を取り巻く様々な課題や現状を啓発することで、受講した指導者は、青少年に対し、質の高い活動を提供できる。
育	36	不登校、いじめ、ひきこもりなど様々な問題を抱えた青少年が、自然体験や環境教育を通して思いやりの心や社会性を身につけ「生きる力」を自ら育むための活動を実施している。	青少年室	山の学校・海の学校事業	毎年、夏と冬に小学4年生から中学生の児童・生徒を対象としたキャンプを開催している。 夏は、カヌー・クルージング等の海洋体験を行い、冬は、雪遊び・スキーなどの自然体験活動を展開している。 平成30年度は、参加費補助制度を創設予定。	自然体験活動を通じて思いやりの心や社会性を身につけ、「生きる力」を自ら育む機会を継続して提供する。	A	吹田市では不登校の児童・生徒に遠足や修学旅行の代わりとなる宿泊や自然体験活動の場を提供し、「心の居場所」として提供している。
育	37	子どもたちの安心安全な居場所として、学校の運動場などを利用して、放課後の居場所づくりとして「太陽の広場」を市内全36小学校で実施している。	青少年室	こどもプラザ事業	太陽の広場」事業は、水曜日を中心に平日の放課後や長期休業日に、地域の実情に合せた回数を市内全36小学校で実施している。「地域の学校」事業は、土曜日を中心に休日に地域のボランティアが主体となって企画運営を行っている地域活動です。地域の方が持つスキルを活用して、子どもたちに様々な体験学習の場を提供している。(各中学校区の地域教育協議会に委託)	市民との協働を更に進め地域の方々の協力を得ながら、引き続き全36小学校での「太陽の広場」の開催を進めていく。また「こどもプラザ事業」の開催回数増加、内容の充実等全市的な拡充を進め、青少年の仲間づくり、居場所づくりの推進を図る。	A	吹田市では、全36小学校で子供たちに「安心・安全な居場所」を提供するとともに、見守りボランティアとしてかかわる大人は「地域の子供は地域で守り育てる」意識を醸成し、地域教育コミュニティの形成を担っている。
育	38	自然体験交流センターでは、青少年に集団での生活を通じて自然と共生し、あらゆる生物のいのちの尊さを体感する場を提供するとともに、市民に自然を生かした生涯学習及び交流の場を提供し、青少年の社会性及び豊かな人間性を育むための活動を実施している。	青少年室	自然体験交流センター管理事業	指定管理制度により管理運営を委託。事業に関しては指定管理者が実施し、野外活動をはじめ、環境学習や社会課題に対応した事業などを多く実施している。(現在の指定管理者との契約は平成33年度まで。)	平成31年度も同様の事業を実施予定。	A	体験活動が不足していると言われる青少年にとって、市内に気軽に行ける自然体験の出来る施設があり、多くの貴重な体験活動の機会を提供している。
育	39	市内の小学校などに対して、環境教育としての自然観察ゾーン等を活かした環境学習や自炊活動を通しての食の大切さを意識する食育の活動などの取り組みを行っている。	少年自然の家	自然観察会事業	自然観察会は、一般市民を対象としたものを5回、保育園等には随時開催します。自然観察及び自炊活動は、事前にプログラム化を説明し、希望がある場合は随時直接指導します。	今までの事業の参加者からは、「日頃出来ない貴重な体験をした。」という感想を多数頂いており、これからも、施設の立地環境を活用したプログラムを提供します。また、希望がある場合は、スタッフの直接指導を行います。	B	自然の家は、市域外にある自然に恵まれた施設であり、その環境資源を活用した自然観察事業を積極的に展開するとともに、家族や少人数グループ等市民の誰もが気軽に利用でき、教育施設としての機能の他、市民の「憩いの家」的な施設でもある。
学	40	市内の大学・研究機関と幅広い分野において連携している。	シティプロモーション推進室	大学のあるまちづくり事業	市内の大学との連携推進協議会を8回(うち4回は予定)開催し、幅広い分野の意見交換や情報共有の実施により、市との連携体制強化につながる成果があった。また、市職員による大学での講義も実施し、市政への関心や理解を深めるきっかけとなっている。	本市の強みである「大学のあるまち」という特性をさらに充実させることを目的として、引き続き共同研究や広報活動等の連携を深めていく。また、現在大学生を対象とした市の魅力について話し合うワークショップを開催しているが、今後とも卒業後も引き続き市内に住み続けてもらえるようなアプローチを実施していく。	A	連携推進協議会については、今後も毎年同回数の開催を予定している。連携体制については引き続き強化のために意見交換や情報共有を実施していく。

※網掛けの項目がシティプロモーションの重点取組候補

シティプロモーションに関連する事業の進捗状況調べ

※「評価」欄について

- A: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が非常に高く、今後も更なる充実が見込める。
- B: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が一定あり、今後も同程度の貢献度で実施予定である。
- C: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しているものの、シティプロモーション推進に対する貢献度は低い。
- D: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しなくなっている。または今後廃止予定である。

暮らしの場面	No	取組例	所管課	実施計画事業名	平成30年度回答			
					実施状況	今後の取組内容	評価	評価の理由
学	41	グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力の育成に向けて、全小学校の6年生が体験学習施設(Osaka English Village)を活用し、英語コミュニケーション体験を実施している。	指導室	英語マスター事業	昨年度までに全36小学校が文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、1年生から外国語活動を行いコミュニケーション能力の素地の育成に取り組んでいる。6年間の外国語活動で学習したことをOSAKA ENGLISH VILLAGEでコミュニケーション体験を行い、外国語への興味・関心を向上させ、中学校での英語学習の意欲向上につなげる。	児童が学習したことを使って主体的に英語でコミュニケーションを図れるよう、OSAKA ENGLISH VILLAGEと協力して、取組を進め学習意欲の向上を図れるような取組にする。	A	児童対象のアンケートでは「活動は楽しかった」について95%、「もっと英語を話せるようになりたい」について83%の肯定的回答を得られ、外国語への興味・関心の向上、学習意欲の向上につながったと判断できるため。
学	42	千里金蘭大学、(公財)文化振興事業団との共催によるファミリーミュージカルを実施し、学生が公演スタッフや出演者として作品を作り、公演する体験をしている。	文化スポーツ推進室	-	平成31年3月にファミリーミュージカルを開催予定。(事業団と共催で実施)	今後も事業団と連携しながら魅力的な事業を実施していく。	B	今年度も大学のあるまち・吹田市の特性や可能性を活かし、学生と市民との交流による新たな文化の発信に取り組む見込みであるため。
学	43	大阪大学、(公財)文化振興事業団との共催による演劇公演を実施し、学生がプロの俳優やオーディションで選ばれた市民とコミュニケーションを取りながら演劇作品を作り公演する体験をしている。	文化スポーツ推進室	-	千里金蘭大学・大阪大学との共同事業、演劇ワークショップを開催予定。(事業団と共催で実施)	今後も事業団と連携しながら魅力的な事業を実施していく。	B	今年度も大学のあるまち・吹田市の特性や可能性を活かし、学生と市民との交流による新たな文化の発信に取り組む見込みであるため。
学	44	保育現場において、子どもの「からだ」と「こころ」の変化を感じることができ、日常保育の中で、継続可能な身体活動を提唱するために、千里金蘭大学と共同研究を実施していく。	文化スポーツ推進室	ココカラsuitableキッズ事業	共同研究協力圏から得たデータを基に身体活動実践集に繋がるサンプル集の第2版を作成している。	共同研究で得たデータをまとめ、作成した成果物を基に、子どもの育ちに関する情報発信を行う。	B	計画通りにサンプル集を作成し、保育施設に配付することができおり、吹田市ならではの成果物作成に繋げることができる。
学	45	家庭や地域など、それぞれが所属するコミュニティにおいて、環境教育を実践する人材を育てるため「すいた環境サポーター養成講座」を実施している。	環境政策室	すいた環境サポーター養成講座運営事業	環境教育が実践できる「伝える力」を身に付け、受講後、それぞれの家庭や地域などで自らが実践すると共に、「すいた環境サポーター」として登録し、各種環境ボランティアとして本市の環境施策や環境活動に参画する人材を育成することを目的として実施している。対象は、18歳以上の方であれば市内外在住在勤を問わない。平成30年度は、現状プロポーザルを実施中であり、契約を締結後、講座やフィールドワークを中心に事業を進めていく予定である。	修了後に市内で環境活動を実践するためには、活動中の市内環境活動団体の紹介や、その団体への参加の仕組みを作ることも、また、18歳以上の方を対象としていることから、本市の各大学生の受講につながる何らかの工夫をすることが必要であり、更なる検討をすすめていく。	B	事業内容は昨年度とほぼ同様の予定である。受講者による修了後の活動が、本市の環境施策に貢献しており、シティプロモーション推進への貢献度は今後も同程度と考える。
学	46	資源リサイクルセンターを拠点として、来館者が楽しみながらリサイクルを実践できる市民工房の運営や、環境問題に関する各種講演会やイベントの開催等、様々な事業を実施している。	環境政策室	資源リサイクルセンター事業	施設の指定管理者である(公財)千里リサイクルプラザと連携をとりながら、ごみの発生抑制を基調とした循環型社会を構築するため、市民の参加のもと様々な事業を実施している。平成29年度は、市民工房の運営、実践教室の開催のほか、市民、事業者、行政が参画した万博ごみゼロウォーク、エキスポシティを会場とし地球温暖化防止を含めた環境問題を啓発するくるくるアースフェスタ、小中学校等での環境学習の成果を発表する環境学習発表会等の各種イベントを開催した。また、常設のレンタルフリーマーケットも新たに設置した。	平成29年3月に(公財)千里リサイクルプラザが策定した中期計画の進捗状況の確認を行いながら、より幅広い年齢層の利用者を獲得するため、引き続き講演会や各種イベントの充実を図るとともに、企業、大学等とも協働し、魅力ある事業の充実に取り組んでいく。	B	来館者数の拡大に向け、若年層の取込みやリピーターの確保・増大を目指した事業を展開しており、今後もシティプロモーション推進への貢献度は一定あると考える。
学	47	市民の生涯学習の機会を提供するため、生涯学習吹田市民大学を開設している。大学連携講座は、大学教員による、歴史や文学、経済、工学など専門的な内容。市内の関西大学・千里金蘭大学・大阪学院大学と共催して実施している。	まなびの支援課	生涯学習吹田市民大学事業	市内の関西大学・千里金蘭大学・大阪学院大学と共催で実施し、延べ2,008名が受講した。	各大学の長所を生かした魅力ある講座を実施し、また現代的課題についての講座も実施することにより、市民の学びの場を提供する。	A	各大学のご尽力により、毎回様々なテーマの講座を企画できている。さらに連携を深め、より幅広いテーマの講座を実施できるよう充実させていきたい。
学	48	生活上の身近な疑問に答えたり、調べもののお手伝いをするレファレンスを実施している。	中央図書館	図書館運営事業	図書館の重要な根幹業務と位置づけしており、29年度受付件数は、16,167件であった。(平成29年度より件数のカウント方法を変更)	司書の専門研修に参加し知識を深め能力向上をめざしている。	A	直接調べものにお応えするだけでなく、パスファインダー(調べもの案内)やブックリストの作成を行い、様々な学びの場として展開していく。
学	49	読書週間に合わせて成人向け講座「図書館講座じゅずつなぎ」を市内の各図書館で開催している。	中央図書館	主催行事事業	29年度第14回図書館じゅずつなぎ講座は、のべ参加人数207人であった。今年度も実施に向けて準備中。	図書館における一般市民への生涯学習の場の提供ととらえ、継続の予定である。	B	昨年度同様に「図書館じゅずつなぎ講座」を実施予定。シティプロモーション推進への貢献度は今後も高いと考える。
学	50	地域の歴史や文化を歴史資料を通して学び、発見、見直していくため、資料展示や講演会・講座等の普及活動を実施している。	文化財保護課(博物館)	公開展示事業	吹田の通史展示と窯業をテーマにした常設展示に加え、毎年、年間6回の企画展示を実施している。企画展示においては関連イベントとして講演会、歴史講座、体験講座を多数実施している。	今後も継続していく予定である。	B	昨年と同様6回の展示で貢献度は同様であるが、将来西村公朝作品の常設展示化が実現すれば、貢献度もあがる可能性はある。

※網掛けの項目がシティプロモーションの重点取組候補

シティプロモーションに関連する事業の進捗状況調べ

※「評価」欄について

- A: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が非常に高く、今後も更なる充実が見込める。
- B: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が一定あり、今後も同程度の貢献度で実施予定である。
- C: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しているものの、シティプロモーション推進に対する貢献度は低い。
- D: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しなくなっている。または今後廃止予定である。

暮らしの場面	No	取組例	所管課	実施計画事業名	平成30年度回答			
					実施状況	今後の取組内容	評価	評価の理由
学	51	ひきこもりや不登校等、思春期・青年期の問題への理解を広めるための啓発講座を開催している。	青少年室 (青少年活動サポートプラザ)	青少年活動サポートプラザ青少年相談事業	一般公開講座として、「発達障がい理解と支援」など社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者の実態や支援についての知識を広める講座を実施する予定です。 また、相談当事者のご家族に対しては、医師の視点や、ひきこもり経験者の視点から支援の在り方を勉強する機会を設けます。	ひきこもりが特別ではなく、誰もがなる可能性があること、早期発見、早期支援が大切であること、段階に応じた切れ目のない支援が必要であることなどについて多くの市民に理解してもらうために、また、本人やご家族をできるだけ早期に支援するためにこの事業を今後さらに充実させていく。	A	青少年を取り巻く社会の急激な変化により、青少年の社会的自立の遅れは今後ますます深刻化していくと考えられ、子ども・若者総合相談センター機能の充実とともに、早期発見・早期支援への取り組みは今後もさらに重要である。
働	52	企業による選考解禁の時期に合わせ、大学生等を対象に、地元企業への就職ニーズと優秀な人材を求める地元企業の採用ニーズをサポートすることを目的に市内企業を含めた就職説明会を実施している。	地域経済振興室	地域就労支援事業	平成30年度において、2019年卒大学生等の選考解禁の時期に合わせ、市内大学や金融機関、商工会議所と共同で大学生等を対象とした就職説明会を実施する。またハローワーク淀川と共同で大学生をはじめとした若年者向けの就職説明会を9月に実施する予定である。	今後も引き続き、大企業に目を向けがちな若年求職者に市内企業の魅力を知っていただけの機会である就職説明会を実施し、市内中小企業への人材確保支援に貢献していく。	B	昨年同様2回の実施で、今後も引き続き地域の若年層と市内企業とのマッチングを図る。シティプロモーション推進への貢献度は今後も同程度と考える。
働	53	就労支援機関である、「JOBナビすいたJOBカフェすいた」では、求職者の個々の状況に応じて就労相談、スキルアップ支援、就職活動に必要な情報提供等を行いながら、職業紹介までトータルに支援を実施している。	地域経済振興室	地域就労支援事業	JOBナビすいたにおいて、利用者の来所及び相談件数の増加を促すため、広報の充実や関係機関との連携強化をはかっている。さらに利用者の求職者の満足度を高め、市内を中心とする企業への就職決定につなげるため、市内企業の魅力を発信するとともに、年間を通して様々な就職面接会を開催する。また、求職者へのスキルアップ支援として就職に有利な資格が取得できる就職支援講座の実施を予定している。	今後も引き続き、求職者の個々の状況に応じたきめ細やかな就労相談や企業開拓の充実を図り、求職者への魅力発信を実施する。また、就職に有利な資格の取得等の支援を実施し、市民の就職決定につなげていく。	B	好景気もあり利用者数は昨年より横ばいだが、今後も引き続き一人ひとりのニーズに合うきめ細やかな支援を行う。シティプロモーション推進への貢献度は今後も同程度と考える。
働	54	【追加】介護保険事業者への研修費補助や面接会等の取組により、市内の介護保険事業者を支援し、介護人材の質の向上と確保・定着を支援している。	高齢福祉室	介護人材確保事業	介護職員初任者研修と介護福祉士実務者研修の受講を支援する市内の介護保険事業者に対し、補助金を交付。また、ハローワーク淀川や隣接市等と連携し、合同就職面接会を実施。他にも、大阪府・北摂市町村・北摂社会福祉協議会・府社協老人施設部会との連携のもと、採用戦略を研究するとともに介護職のイメージアップなどの取組を進めている。	今後も引き続き、関係機関との連携のもと、介護人材の質の向上と確保・定着の取組を進める。	C	市内での就業やキャリアアップの促進が期待されるが、事業者への研修費補助であるためシティプロモーション推進への直接的な貢献度は低い。
働	55	「JOBナビすいた・JOBカフェすいた」と連携し就職活動に必要な資料提供に努めている。	中央図書館	図書館運営事業	さんくす図書館で「ハロージョブコーナー」を設置している。就職に役立つ本や資格取得のための問題集なども収集提供している。新しい情報に更新するよう今年度も資料の収集を行う。	江坂図書館ではビジネス支援コーナー、千里図書館では起業コーナーを設置し、館ごとに特色ある運営を行っていく。	A	就職や仕事に役立つ本や雑誌・新聞、データベース等の提供を通じた支援を行っており、今後も関連機関との連携を通じ更なる充実が見込める。
交	56	市内最大級のイベントである吹田まつりへの補助を実施している。	シティプロモーション推進室	吹田まつり補助事業	「好いたおどり」やパレード等、従来の催しのほか、昨年から始まったスプラッシュパーティを今年度も開催予定。	2019年度に開催50回目を迎えることとなり、市民主体の魅力的なまつりとなるように、更なる組織体制の強化が図られるよう引き続き補助を実施していく。	A	スプラッシュパーティの実施や、開催50回・51回を迎えるにあたって、より魅力的なまつりになるよう企画を進めている。
交	57	健都イノベーションパークの進出事業者と市内事業者の連携・活用を推進する。また、多世代が身近に利用できる図書館を多機能化した(仮称)健都ライブラリーを起点に、多世代交流を促進する。	北大阪健康医療都市推進室	北大阪健康医療都市推進事業	健都イノベーションパークにおいて、フラッグシップとなる優先交渉権者と協議を進めている。	引き続き優先交渉権者と、健都で事業展開するに当たっての連携方法を協議する。また、各種健康イベントが開催できる多目的室や、健康カフェなどを備える図書館を多機能化した(仮称)健都ライブラリーの整備を進める。	A	国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター形成の基本的な考え方、まち・ひと・しごと創生総合戦略、健康・医療のまちづくり加速化プラン等の本市施策に資する取組のため。
交	58	市民公益活動センターにて、市民公益活動団体に会議室を貸与するほか、活動を支援する講座・交流会を行っている。	市民自治推進室	市民公益活動センター事業	市民の誰もが集える場として、交流スペースや会議室(有料)の提供を行っている。また、特定のテーマで自由に語り合えるテーマカフェを始め各種講座等を開催している。	引き続き市民公益活動の場の提供を行うとともに、地域課題を意識した市民が関心を持ち参加しやすいテーマを扱ったテーマカフェや講座等を実施していく。	B	昨年度同様活動の場の提供及び各種講座の実施で、シティプロモーション推進への貢献度は今後も同程度と考える。
交	59	メイシアターでは、プロの俳優と、学生、多世代の市民と一緒に舞台作品を作り上げ、作り手の多世代交流や、初めての人が演劇と身近に接する機会を作っている。	文化スポーツ推進室	-	演劇のオーディションには多くの市民や学生が参加しており、多世代の交流が図られている。	今後も事業団と連携しながら魅力的な事業を実施していく。	B	今年度も昨年度と同様に演劇を軸とし、多世代間の交流を図りながら、様々な方面へのアウトリーチ活動に取り組む。

※網掛けの項目がシティプロモーションの重点取組候補

シティプロモーションに関連する事業の進捗状況調べ

資料2

※「評価」欄について

- A: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が非常に高く、今後も更なる充実が見込める。
- B: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が一定あり、今後も同程度の貢献度で実施予定である。
- C: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しているものの、シティプロモーション推進に対する貢献度は低い。
- D: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しなくなっている。または今後廃止予定である。

暮らしの場面	No	取組例	所管課	実施計画事業名	平成30年度回答			
					実施状況	今後の取組内容	評価	評価の理由
交	60	「千里市民フォーラム」や「千里キャンドルロード」などの市民活動を支援する。	計画調整室	千里ニュータウンまちづくり広域連携事業	月1～2回開催される会議やサロンにおいて、意見交換や情報共有を行うほか、イベント周知などの支援を行い、市民と協働で取り組んでいる。イベントには、多くの市民が訪れ、千里ニュータウンへの関心や愛着を深める機会となっている。	引き続き、取り組みを進めることにより、千里ニュータウンの魅力向上や活性化、新たな市民活動の担い手の発掘・育成につなげていく。	A	千里キャンドルロードは毎年1万人を超える来場者がある。昨年千里市民フォーラムから生まれた「ウォーターバトル」にも約900人の来場者があった。
交	61	日本最初の大規模ニュータウンである千里ニュータウンのまちづくりの歴史や住民の生活文化に係る資料展示のほか、講演会やイベント等を通して、地域からの情報発信や情報交換を行うことにより、多様な主体の相互交流や連携の促進、千里ニュータウンのまちづくりの推進に取り組んでいる。	計画調整室(千里ニュータウン情報館)	千里ニュータウン情報館運営事業	千里ニュータウンの計画当時のジオラマや12住区の紹介などの常設展示のほか、年に2回程度の企画展や他施設との共催事業などに取り組んでいる。地域住民だけでなく、他府県や海外などからも見学者があり、千里ニュータウンへの関心や交流を深める機会となっている。	今後も大規模ニュータウンの先駆けとして常にリードし続けることを目的として、引き続き、情報発信や情報交換、多様な主体との交流に取り組んでいく。また、展示やイベントの内容の充実を図り、リピーターやより広範囲からの来館者の増加を目指し、千里ニュータウンへの愛着や関心を深める機会を提供していく。	A	他の自治体や海外(韓国、カンボジア等)からの視察が多数ある。千里図書館や豊中市千里文化センターとの連携展示・イベントを開催し、千里ニュータウンの魅力発信に寄与している。
交	62	リサイクルフェアを開催し、地域に還元している。	中央図書館	図書館運営事業	リサイクルフェア3館で実施。のべ459人以上の参加者があった。(1館では参加人数カウントせず)	イベントの他に館内にリサイクルコーナーを設け本の提供を行っていく。	B	リサイクル本の提供を通じた交流の場を提供しており、今後もシティプロモーション推進への貢献度は高いと考える。
交	63	青少年が自由に来館し、自立や社会参画を促すことを目的とした居場所を備え、青少年の交流を支援している。	青少年室(青少年活動サポートプラザ)	青少年活動サポートプラザ施設運営事業	未来館3階の交流ロビーには小・中・大学生が集まり、年代(学年)・学校を越えた自然な交流が行われている。一方で青少年の交流・居場所事業については青少年活動の実績のある民間団体等に委託し、ロビーワーカーの育成・活用と夏祭りなどの事業を実施する。	多くの青少年が参加し、夢を持って巣立っていると理解している。未来館のコンセプトである「夢・つながり であう場 はじまる場 広がる場」に沿った事業であり、今後も実施していきたい。	A	子供が大人への成長過程において、特に重要な青年期に関わる事業である。青少年が様々な活動を通じて、情報を得、他者と交わることにより、自主性や協調性を育み、成長できるよう支援している。
遊	64	情報発信プラザを拠点として市内の魅力的な観光スポットや北摂近隣市の情報を紹介している。市のイメージキャラクターすいたんを活用し、様々なイベント出演やSNSによる情報発信を実施している。	シティプロモーション推進室	観光企画推進事業 情報発信プラザ事業 シティプロモーション事業	情報発信プラザ(Inforestすいた)では市内各施設やイベント情報のパンフレット配架をはじめ、市の特性を紹介するフェアを平成30年度には11回実施予定。大型複合施設であるエキスポシティの来訪者へ本市及び北摂近隣市の情報発信を実施している。市のイメージキャラクターすいたんについては市内外の様々なイベントへの出演実績を重ねることで、幅広い年齢層から愛着を持たれる存在となっている。	引き続き情報発信プラザ(Inforestすいた)を拠点とした効果的な情報発信に取り組むとともに、イメージキャラクターすいたんについてはイベント等での出演機会の増加を図りながら、新たな活用方法について研究していく。	A	情報発信プラザは毎年来客数が増加しているほか、すいたんの着ぐるみ貸し出しやデザインの使用も増加しているため。
遊	65	メシアターでは、海外オーケストラやバレエ団などの招へいから、関西演劇界の定期的な公演やオリジナルプロデュース公演、狂言公演や上方落語の一門会など、良質な舞台芸術を数多く手がけ、市内市外から多くの観客を集めている。	文化スポーツ推進室	市民劇場等運営委託事業	クラシックコンサート、バレエ公演、平和コンサートを実施している。	上質な舞台芸術を広く実施し、市民に鑑賞の機会を提供する。	C	今年度はメシアター大ホールの使用中止によって、各公演の中止や規模の縮小となる変更があったため、昨年度よりは貢献度が低くなる見込みである。
活	66	公募吹田市美術展覧会を秋に実施し、絵画・彫刻・写真・書など市内市外から作品を募集している。	文化スポーツ推進室	市展運営委託事業	10月2日～8日までの会期で、メシアターで開催予定	今後も、市民から公募作品を集め優秀作を表彰するなど美術活動を振興するとともに、鑑賞して楽しむ機会を提供する。	B	市民の芸術活動の成果である作品を審査、優秀作を展示することにより、本市の文化活動の促進、振興につながる事業である。
遊	67	図書館公式ツイッターでおすすめの本の紹介だけでなく市内のイベントの情報も発信している。	中央図書館	コンピュータシステム整備事業	29年度ツイッター、フェイスブックの投稿件数1,160件。今年度も随時投稿している。	本の情報だけでなく吹田に関する情報の発信に努めていく。	A	ツイッター、フェイスブックで平成29年度実績で1160件の情報発信を積極的に行っており、市、図書館のPRを行っている。
活	68	本市北部にある千里丘陵の原風景である竹林に親しみ、千里の竹林の保全意識の高揚を図ることを目的に千里の竹あかりを実施している。	公園みどり室	みどり普及・啓発事業	10月末に、北千里市民体育館前の竹林や千里北公園において、竹林の保全に関心のある市民団体と連携し、イベントを実施する予定。多くの市民の参加により、竹林の保全意識の高揚を図る予定。	広報内容を検討し、来場者数を増やすことで、竹林保全の大切さを、多くの市民に知ってもらう。	B	千里の竹林を利用したイベントとして、定着しつつあり、貢献度は一定。今後も同程度とする予定のため。
活	69	自分の読書体験から、おすすめの本を紹介して読みたいチャンプ本を決めるどブリオバトルを実施している。	中央図書館	図書館運営事業 主催行事事業	中高生年代が読書体験を深めるきっかけとなる催しで、29年度は22名の参加者があった。今年度も実施。	学校でも取り組まれているが、図書館でも継続していきたい。	B	小規模ながら、様々な世代が集う図書館ならではの場を通じた世代間交流の場となっている。

※網掛けの項目がシティプロモーションの重点取組候補

シティプロモーションに関連する事業の進捗状況調べ

※「評価」欄について

- A: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が非常に高く、今後も更なる充実が見込める。
- B: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しており、シティプロモーション推進に対する貢献度が一定あり、今後も同程度の貢献度で実施予定である。
- C: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致しているものの、シティプロモーション推進に対する貢献度は低い。
- D: 事業の目的や実施内容が本市のシティプロモーションの方針と一致していない。または今後廃止予定である。

資料2

暮らしの場面	No	取組例	所管課	実施計画事業名	平成30年度回答			
					実施状況	今後の取組内容	評価	評価の理由
活	70	【追加】書架の上などの館内の空きスペースに市民の絵画、写真等の作品を定期的に募集して展示している。	中央図書館	図書館運営事業 主催行事事業	2か月に一度作品展示希望者を個人単位で募集している。作品展示者が講師となった作品作り講座も実施するようになり、地域の方の交流の場にもなっている。	地域の人々の活動発表や交流の場として今後も継続していきたい。	B	地域の方が気軽に利用できる図書館ならではの個人の活動発表や交流の場となっている。
全	71	プロサッカーチームのガンバ大阪のホームタウンとして、ガンバ大阪と連携した事業を実施している。	シティプロモーション推進室	シティプロモーション事業	ガンバ大阪のホームゲーム開催時にはイメージキャラクターすいたんが市立吹田サッカースタジアムに出演し、サポーターと共に応援を実施している。ガンバ大阪の試合当日(試合の開催が閉庁日の場合は前日)には職員がガンバ大阪のユニフォームを着用して執務にあたる「ブルー大作戦」実施。ガンバ大阪のユニフォーム版(2種類)と普段着版のすいたんマスコットを製作し、ガンバ大阪、すいたん、及び本市への愛着を深める仕掛けづくりを行う。	全市を挙げてガンバ大阪を応援する機運を高めていくために、ガンバ大阪後援会との連携を深め、ガンバ大阪のあるまちならではの事業を引き続き展開していく。	A	すいたんは多くのガンバサポーターに認知され、ガンバユニフォーム版のすいたんマスコットは7月の限定販売時、1日で売り切れた程の人気がある。
全	72	【追加】すいたんや、シティプロモーションのキャッチフレーズである"suitable city"のグッズ等プロモーション製作物で、吹田市のPR活動を行っている。	シティプロモーション推進室	シティプロモーション事業	すいたんマスコット(ガンバ版・普段着版)、suitable cityピンバッジの販売のほか、すいたんのラッピングカー、吹田市PR冊子を製作予定。	販売物、ノベルティを問わず、PRグッズを開発する。	A	すいたんマスコットは今年度3種類に増やして販売。その他の製作物についても配付用・販売用を問わず展開を広げていく予定。
全	73	【追加】吹田市の若手職員によるシティプロモーションの推進を行う有志グループenZINEを運営。独自の婚姻届や市民課前のフォトパネル、年賀状、職員のネックストラップを作成した。	シティプロモーション推進室	シティプロモーション事業	若手職員を募集し、第3期のenZINEを発足した。	動画や写真の製作、新たなグッズの企画等を行う予定。	A	昨年度は婚姻届やオリジナル年賀状等が大きな反響を呼んだ。今後も新たなグッズの製作や企画等、更なる展開を予定している。
全	74	【追加】市が使用する共通事務用品の封筒のデザインをスイタブルシティのロゴマークとキャッチフレーズに改めるとともに、独自で封筒を作成している室課に対して、同様の変更をしよう求めた。	法制室 シティプロモーション推進室	文書発送事業	6月に納品されたため、今年度から新しいデザイン封筒を活用していく。	独自で封筒を作成している室課への周知	B	貢献度は高いが更なる充実を図ることは予定していない。
全	75	市民から本市の魅力が広がる仕掛けづくりを実施している。	シティプロモーション推進室	シティプロモーション事業	まちの魅力に関する市民参加型のワークショップを開催し、よりよいまちづくりに関する提案とともに、本市の魅力を発見、再認識できる機会を提供する予定。また、映画やドラマの撮影を誘致し、地域への愛着の醸成に寄与している。	ワークショップについては引き続き趣向を凝らしながら実施し、市内各地域を巡る開催形態を検討していく。撮影誘致については大阪府内での誘致に取り組む大阪観光局と引き続き連携していく。	B	ワークショップは昨年同様1回の実施予定。映画等の誘致も昨年同様で、シティプロモーション推進への貢献度は今後も同程度と考える。
全	76	効果的なシティプロモーションの推進のために、行政以外の様々な立場から意見、助言を聴取している。	シティプロモーション推進室	シティプロモーション事業	学識経験者やメディア関係者で構成される「吹田市シティプロモーションアドバイザー会議」を3回実施しており、幅広い意見の聴取に努めている。またICTの効果的な活用を図るため、NTT西日本との連携事業を実施している。	引き続き幅広く意見を聴取するとともに、庁内各部署へのフィードバックを実施していく。	B	昨年同様3回の実施で、シティプロモーション推進への貢献度は今後も同程度と考える。
全	77	【追加】行政情報の周知やすいたんの魅力アップのための、SNSによる発信	シティプロモーション推進室	シティプロモーション事業	ツイッター・フェイスブックですいたんによる行政情報、すいたん自身の魅力を多くの人に知ってもらうための投稿を行っている。	今年度はインスタグラムのアカウントを開設し、利用者に市のPRを行っていく	A	すいたんのSNSは順調にフォロワーを増やしている。またインスタグラムを開設することでよりPRの幅が広がる。

評価の割合 A:35(45%) B:39(51%) C:3(4%) D:0(0%)

※網掛けの項目がシティプロモーションの重点取組候補